

事前評価報告書

R 6 年 8 月 2 7 日 (火)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	トマト施設栽培の高収益化に向けた生産性向上技術の確立	
研究期間	R 7 年度 ～ R 9 年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.2
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.2
	総合評点	3.5
[評価所見] ・本課題の社会的背景に生産者の高齢化が上げられている。ロックウールと養液栽培を組み合わせたトマト生産は既に他場所で多くの実績があり、収量増が見込まれる。それに伴い生産管理(栽培・収穫等)に係る就労時間の長期化が想定され高齢化した生産者にとっては多くの負担がのし掛かることが想定される。従って、省力化対策も同時に検討する必要がある。また、本技術を産地に実装する大凡の年度(社会実装までの研究期間)も想定した取り込みが重要である。 ・本課題では特に経営的評価が重要になってくるかと思います。本課題を実施するにあたり、目標となる数値を事前評価から見積り、設定するようにしてください。 ・生産性、収益性向上に向けた生産モデル確立に期待します。技術確立による現場への対応は、野菜産地の維持・活性化や担い手対策に寄与するものと考えております。 ・農家として夏季の高温化により全国的に果菜類の栽培が困難になっている実感がある。抑制作による高品質安定生産が実現すれば農家にとって大きなメリットになる。 ・年々高温化になっているので高温障害に強い品種や技術の確立がこれからのトマト栽培に重要で必要な技術になるので期待したい。		

事前評価報告書

R6年8月27日(火)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	施設土耕キュウリ抑制裁培における増収技術および越冬作型の開発	
研究期間	R7年度 ～ R10年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.8
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.2
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.2
	総合評点	3.4
[評価所見]		
・養液土耕の技術を産地に適した方法としてブラッシュアップすることは、販売単価の高い時期に出荷できることから農業経営的にも重要である。本改良は、抑制作型を延長する越冬栽培となることから、もしそこで慢性的な病害虫被害が発生した場合には次の半促成栽培に影響を及ぼしかねない。不測の事態を想定した対策も併せて検討しておくことが肝要である。社会的背景も踏まえ、生産者の意見をうまく取り汲みながら、少しでも早い段階から生産現場への実装を図って頂きたい。 ・本課題においても経営的評価が重要になってくるかと思います。本課題を実施するにあたり、目標となる数値を事前評価から見積り、設定するようにしてください。また、得られた成果をマニュアル化し、生産者が導入可能な手順等を示していただけると助かります。 ・収量・品質・労力等、総合的に付加価値のある栽培技術確立は産地維持拡大に寄与するものと考えます。 ・気候の極端化により全国的に自然災害が増加し、特に9月～2月は野菜の生産・価格が不安定化する傾向にある。低コストの増収技術の確立は農家にとって大変大きなメリットになる。 ・定植時期の研究で収穫終了から定植の期間が短く圃場の連作障害が懸念されますが、影響がなくとも収穫終了から定植までの期間を今までと同じくらい確保できる研究して欲しい。その期間が農家が身体を休ませる大事な期間ですのでお願いしたいです。		

事前評価報告書

R6年8月27日(火)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	光刺激による鳥獣の追い払い技術の確立	
研究期間	R7年度 ～ R9年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.6
2	研究内容の新規性	4.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.4
	総合評点	4.0
[評価所見] ・動物の「慣れ」を呼び起こさないような既存技術と組み合わせたローテーションの構築なども重要ではないだろうか。そのためには、なるべく多くの個別技術の開発が求められる。本課題で開発する技術もその一翼を担うことを期待したい。 ・圃場に設置できるような工夫と改良をお願いいたします。 ・現場ニーズに直結する対策となるため、研究を深めてもらいたい。また使用場面を幅広く検討し、「寄せ付けない」等に関しても研究を期待します。 ・中山間地の多い山梨県では多くの農家が悩まされている問題であり、電柵以外の低コストの対策・技術開発が求められていると思う。 人にも刺激があるのが問題とのことだが、対策を検討することで様々な超獣害に対応できる対策になることを期待したい。 ・最近今までいなかった害獣の被害がでてきているのでこの技術の開発で色々な対応ができるようになると思われるので期待したい。 置き型でタイマー付きの装置などもあると色々と思われそうです。		

中間評価報告書

R6年8月27日(火)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	果樹や野菜におけるバイオ炭を用いた土壌炭素貯留効果の検証	
研究期間	R5年度 ～ R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.8
[評価所見] ・本技術を実装するにあたり、果樹園等から搬出される剪定枝をどのような工程でバイオ炭として加工しそれをどのようにして製品まで仕上げるのか、典型例となるビジネスモデルをデザインし、それに基づいた社会実装へのロードマップを描く必要がある。本技術を実装するにあたり、果樹園等から搬出される剪定枝をどのような工程でバイオ炭として加工しそれをどのようにして製品まで仕上げるのか、典型例となるビジネスモデルをデザインし、それに基づいた社会実装へのロードマップを描く必要がある。 ・野菜生育への影響調査を実施した意図が分かりにくかったです。本課題の主旨とずれている気がします。 本課題で得られた成果から今後の将来構想を示してもらえると分かりやすいかと思います。 ・バイオ炭を堆肥に混ぜた使用や新たな商品開発で効率的且つ効果的な使用方法の検討を期待しております。 ・炭素貯留効果、野菜への生育の効果、両方が期待できる。農家にとってやりやすい炭化法、利用法をさらに検討してほしい。 ・果樹の剪定枝の新しい使い方としてとても有効でCO2削減効果を期待でき、またバイオ炭を土壌施用した時の野菜の発育や収量への影響の研究も期待しています		

中間評価報告書

R6年8月27日(火)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	野菜栽培ほ場における温室効果ガス亜酸化窒素発生抑制技術の確立	
研究期間	R5年度～R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.8
[評価所見] ・緩効性肥料とマルチ下局所施肥技術との組み合わせは本中間評価において重要な成果である。そこで、本技術が完成したときのことを想定し、慣行の施肥体系のどこにどのように組み込むのか、現時点から具体的なシステム案を検討しておくべきである。また、本技術を生産体系に導入した場合の経営評価についても取り扱う必要がある。 ・有機資材を用いた際の亜酸化窒素発生抑制技術もぜひ検討してください。 ・栽培技術確立で持続的な産地の確立、施肥体系等は研究対象作物以外においても検討いただき、幅広い展開に期待します。 ・緩効性肥料のマルチ局所施肥技術によって施肥コストの削減、生産性の向上にもつながることを同時にアピールすればより技術の普及につながることが期待できる。 ・亜酸化窒素発生抑制の技術はの確立は達成できそうであると思うが、肥料の種類や施肥方法で野菜の収量が減少するならば実用性が無いのでそこらの研究も併せてお願いしたい 追肥で即効性肥料と緩効性肥料混ぜて施肥するので実際農家の施肥状況を確認してもらいたい		

中間評価報告書

R6年8月27日(火)

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	秋出しコチョウランの省エネ品質向上技術の確立	
研究期間	R5年度 ～ R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	4.0
[評価所見] ・コチョウランの品質向上を目的とした光量および栽培温度の調節に関する研究は重要である。それらの適正如何によっては農家の収益に直結する問題になる。効果が見込まれる幾つかの個別技術を用意しておくことで、農家の圃場環境に適した対応にも多様性が生まれる。各農家圃場に適した技術を提供するに至るまでのフローチャートやコンサルタントの仕組みも準備しておく必要があると思われる。 ・多少温度が高くても光量を確保できれば品質が良くなるという成果は今後の課題遂行に大きく貢献するものと思います。今後の研究に期待しています。 ・栽培技術確立により持続的な産地の育成、研究した内容をパッケージ化した普及推進に期待します。 ・春は遮光資材により冷房コストを削減し、夏は遮光遮熱の資材を変えるだけで品質を向上できることを証明できることが明らかになってきている。単価の高い作物なので農家にとっては大きなメリットになることが期待され春は遮光資材により冷房コストを削減し、夏は遮光遮熱の資材を変えるだけで品質を向上できることを証明できることが明らかになってきている。単価の高い作物なので農家にとっては大きなメリットになることが期待される。 ・冷やすはコストがかかるので資材と栽培方法で目安として慣行栽培とのコストの差がわかると農家も取り組みやすい。 品質が向上してコストダウンするので是非技術の確立を達成してもらいたい		